

表 6

「満足したか」

n=375

(人)

満足した	242
ほぼ満足した	123
不満が残る	10

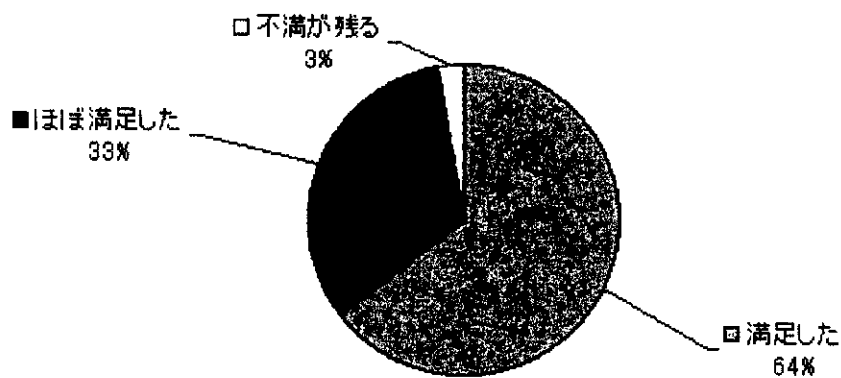


表 7

「また利用したいか」

n=358

(人)

はい	324
どちらとも言えない	31
いいえ	3

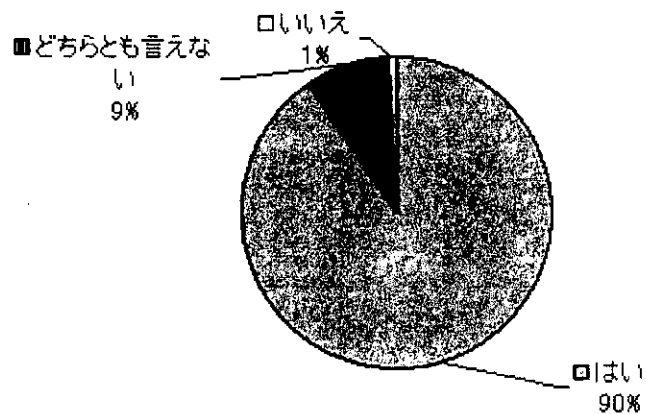


表 8

相談相手は、今後も医師による相談がいいか。それとも、薬剤師や栄養士等の職種の方にも相談する機会があった方がいいか。

n=337
(人)

今後も女性医師に相談した方がいい	216
他の職種の人も加えた方がいい	92
どちらとも言えない	29

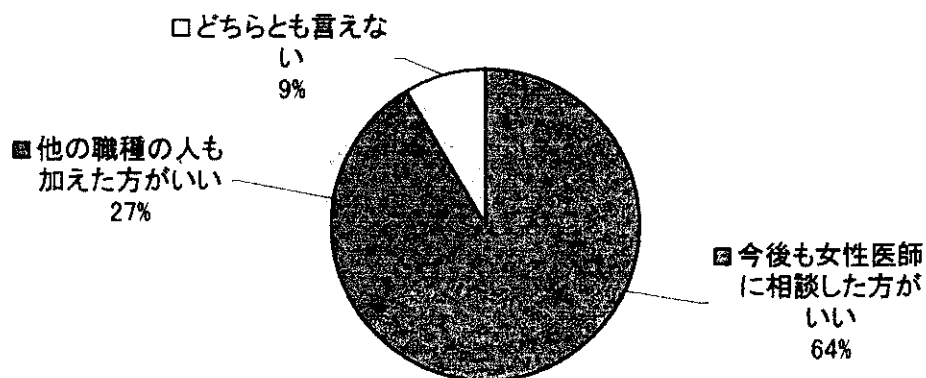


表 9

「医師は、女性がいいか。それとも専門的知識のある男性医師でもいいか」

n=346
(人)

女性医師がいい	258
専門的知識のある男性医師でもいい	57
どちらとも言えない	31

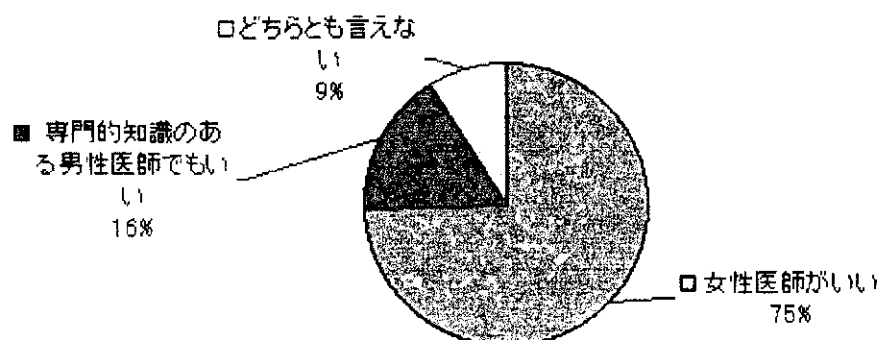


表10-1

平成13年度 女性の健康支援事業 研修結果

	研修会名	実施日及び場所	主な講義・内容	対象者	参加者数
1	健康相談 担当者研 修	H.13.11.6 県教育会館	・日本における女性の疾病構造の変遷とこ れからの女性医療のあり方 (東京水産大学教授 天野恵子) ・更年期女性の健康支援のあり方 (健康オフィス宮原代表 宮原富士子)	市町村・ 保健所 保健師	76名
2	千葉県 女性医学 シンポ ジウム	H.13.12.4 幕張メッセ 国際会議場	・Gender and Health/Women's Health Update (コロンビア大学 女性の健康パートナ シップ所長 Dr.Marrienne J.Legato) 他	医療関 係者等	259名
3	女性の ための 健康教室 企画研修	H.13.12.13 教育会館	・更年期教育に取り組む必要性と健康教室 の企画運営 (健康オフィス宮原代表 宮原富士子)	県保健所 保健師	16名
		H.14.1.10 教育会館	・更年期教育における教育方法 (健康オフィス宮原代表 宮原富士子)		18名
4	健康相談 担当者研 修会	H.14.2.12 教育会館	・更年期以降の女性の医療について (東京水産大学教授 天野恵子) ・更年期女性の健康支援について (健康オフィス宮原代表 宮原富士子)	市町村・ 保健所 保健師	66名

表10-2

平成14年度 女性の健康支援事業 研修スケジュール

	研修会名	実施日及び場所	主な講義・内容	対象者	参加者数
1	女性のための 健康相談担 当者説明会	H.14.4.19 (県庁多目的 ホール)	・女性医療の現状 (東京水産大学教授 天野恵子) ・相談事業の実際 (千葉大学大学院 竹尾愛理)	事業関係者	55名
2	「ウィメンズ ヘルスセミ ナーin千葉」	H.14.5.25 (千葉市保健所) H.14.5.26 (千葉県教育会館)	・生涯にわたる健康支援 (東京歯科大学教授 麻生武志) ・女性医療の展望 (千葉県知事 堂本暁子)	医療関係者	延 204名
3	健康相談担 当者研修会	H.14.6.3 (県文書館) H.14.6.17 (県教育会館)	・女性の健康の現状 ・グループ別討論研修 (健康オフィス宮原代表 宮原富士子)	市町村・ 保健所 保健師	延 126名
4	女性の健康に 関する医療従 事者研修会	H.14.9.19 (木更津保健所) H.14.9.26 (柏中央公民館) H.14.10.3 (印旛合同庁舎)	・なぜ女性の健康支援か (衛生研究所長 天野恵子) ・女性の健康と医療問題 (東金病院長 平井愛山)	医療関係者	延 230名
5	「母子保健 研修会」 公開講座	H.14.11.18 県文書館	・思春期の子供の性意識と性行動及び保健指導 のポイント (日本家族計画協会クリニック所長 北村邦夫)	保健・警察等 関係者	250名
6	国際シンポ ジウム Meeting on Women and Health-Gender Based Analysis	H.15.3.1 幕張メッセ	・男女差に敏感な医療	関係者	WHO神戸セン ター主催(県 は後援)

表11-1

女性のための健康教室 平成13年度 各保健所の健康教室の運営実績

保健所名	テーマ	参加数
習志野	骨粗鬆症の予防のための食事について	18
	更年期を乗り越えるために	
船橋	女性の一生の健康支援に向けてー更年期を快適に過ごそうー	10
	健康教育の意義、目的	13
	女性の食生活ー高脂血症・骨粗鬆症予防のためにー	
市川	女性の健康づくり	22
	女性の健康管理のための基礎知識	
松戸	女性の危険因子ー肥満・高血圧・糖尿病・喫煙ー	17
	更年期に変わる女性のこころとからだ	
柏	働く女性のための上手な心のリラックス法	60
	働く中高年女性の運動の仕方について	
	更年期、老年期における骨折、骨粗鬆症予防について	
野田	介護老人保健施設及び社会福祉施設等における健康教育について	93
	更年期の女性の心とからだ	
	婦人科疾患とホルモン補充療法について	
佐倉	更年期女性の健康支援について	52
	更年期の体と心の変化及びその症状・治療・予防について	
香取	更年期相談の実際について	68
	更年期を正しく理解しよう	
	更年期を上手にのりきろう	
海匝	更年期を上手にのりきろう	31
	40代からの女性のからだ	
山武	自分でもできる健康チェック	38
	女性の健康チェック及び千葉県的女性医療の動向情報	
	更年期を正しく理解し、快適に過ごすために	
茂原	ストレッチで身体をリラックス	47
	これからの女性の健康と医療	
勝浦	更年期の女性の心とからだー避妊についてー	124
	すこやかな更年期を迎えるために	
	40代からの体の変化を理解するー糖尿病にならないためにー	
安房	自分でもできる健康チェック	56
	更年期からの人生を快適に過ごすためには	
木更津	更年期から	46
	健やかな更年期に向けて	
市原	こころとからだのリフレッシュで健康づくり	63
	高脂血症・肥満等から気をつけたい病気について	
計	更年期障害について	44
	20回	
		901

表 11-2

女性のための健康教室 平成14年度 各保健所の健康教室の運営実績(～12月)

保健所名	テーマ	参加人数
船橋	① 女性に多い症状を乗り越えるための基礎体力づくり 実技：持久力・調整力・筋力・柔軟性を養うための運動 「女性のための健康相談」等の保健所事業紹介	15
	② 更年期に変わる女性のこころとからだ 「女性のための健康相談」等の保健所事業紹介	24
市川	① 女性の健康支援事業の現状と課題 女性にとって更年期とは	17
	② 女性の健康に係る情報提供 女性のからだところ	38
佐倉	① 更年期を上手にのりきろう 更年期の体と心の変化およびその症状・治療・予防について	40
勝浦	① 健康ちば21の啓発 肥満予防・がん検診の勧め・乳がんの自己検診	70
	② 健診等からみた管内の女性の健康問題 40代からの女性の体と健康 高脂血症予防とカルシウムたっぷりの食事及びウォーキング	46
	③ 女性の健康づくり教室（思春期編） 子どもたちと性について気軽に話し合しましょう！	120
	④ 千葉県及び夷隅郡市健康診断結果からみた女性の健康 これからの老年期に向けて、健康寿命を延ばし活動的に生活するために、女性ホルモンの作用と減少への対策	21
安房	① 女性の健康とメンタルヘルス 女性の健康と女性ホルモンの重要な働き 安房保健所における女性のための健康相談	86
	計	10回

表12

国公立病院における女性専用外来設置状況

都道府県名	医療機関名	特徴等		
		開設年月	担当医師	事項
北海道	国立函館病院	平成14年12月	①名称:女性総合外来 ②担当医:女性 ③診療:産婦人科において週1回 ④診療時間:概ね1人あたり30分	
山形県	白鷹町立病院 東北中央病院	新聞情報		
千葉県	国保君津中央病院・国保旭中央病院・亀田総合病院・順天堂大学浦安分院については県費補助あり・松戸市立病院・井上病院は補助なし 県立東金病院 佐原病院 循環器病センター	平成13年9月 平成15年2月 平成14年6月	内科女性医師 内科女性医師 内科女性医師	県立以外の民間、公立病院における女性専用外来設置・運営に係る予算補助あり
東京都	東京女子医科大学	スタッフ:全員女性、 科目:産婦人科、内科、乳腺科、精神科、心療内科、泌尿器科、皮膚科 東京都立大塚病院(平成15年度)・都立府中病院・都立墨東病院(平成16年度)設置予定		
神奈川県	関東労災病院 国立横浜病院	平成13年10月 平成13年9月	県立病院における女性専門外来の設置を検討中	
茨城県	平成15年4月から1病院で産婦人科に女性医師のみを配する予定			
福井県	福井医科大学附属病院	平成13年	中高年外来	閉経後の女性対象。専用室はない。 公的医療機関1ヶ所で平成16年度女性専用外来設置に向けて検討中
富山県	富山市民病院	平成14年10月	産婦人科、内科の女性医師	毎週水曜日午後開設、完全予約制
長野県	現在予算要求中、詳細は未定			
石川県	金沢医大	平成15年度開設予定		
岐阜県	県立岐阜病院	平成14年4月～	担当医師:産婦人科。総合内科、産婦人科、皮膚科、耳鼻咽喉科などの女性医師8名がサポートしている。	診療時間は1人40分程度、女性の身体的症状、精神的不安などについての総合的な診療。
愛知県	労働福祉事業団中部労災病院 春日井市民病院	平成14年2月～ 平成15年度から女性専用窓口が設置される予定	内科・婦人科の女性医師6人が交代で担当	週2回 名古屋市立病院における女性専用外来設置について平成15年度から検討開始予定
大阪府	健保連大阪中央病院 大阪府立病院 大阪市立十三市民病院	平成14年9月 平成15年1月15日～ 平成14年10月～	産婦人科・精神科・臨床検査科・皮膚科・ 免疫リウマチ科・小児科・眼科に属する 女性医師9名が毎週交代で診療 乳腺外来・更年期外来・女性総合外来の3外来	診察時間:毎週水曜日午後2時～4時 診察方針:原則初診(2回目以降、受診が必要な方は専門医を紹介) 注:女性専用外来としての予算区分はしていない 毎週水曜日午後開設
京都府	京都予防医学センター	平成14年12月		
山口県	国立下関病院 山口大学 山口県立中央病院	平成14年9月 平成15年3月開設予定 現在開設準備中	科目:内科・皮膚科。スタッフ:医師4名と看護士1名。	子供の一時預かり。完全予約制。
広島県	県立病院での開設について検討中			
徳島県	平成15年度徳島大学医学部において開設予定			
高知県	高知県立医療センター	平成17年開設予定		
福岡県	福岡医科大学			
鹿児島県	県民健康プラザ 鹿児島医療センター 鹿児島大学	平成13年12月 平成13年5月	内科 内科	第1・3火曜日午後・予約制

表13 各自治体における女性の健康相談および啓発事業

	事業名	実施場所	事項
岩手	女性健康支援センター事業	県内10保健所	女性の健康に関する不安や悩みに対する電話や来所相談
宮城	女性の健康対策推進事業	県内	●女性の健康相談事業:宮城県医師会が仙台市内で週1回実施している女性医師による相談会を県内地域に展開するため、宮城県女医会に助成を行う。 ●宮城における女性の健康課題検討会
山形	生涯を通じた女性の健康支援事業	県保健所4ヶ所	女性の健康相談事業 健康教育事業
群馬	女性の健康支援センター事業	県保健福祉事務所 1ヶ所	産婦人科女医、保健師による思春期から更年期にいたる女性の健康相談
埼玉	女性の健康応援プログラム開発事業		尿失禁に関する 予防プログラムの開発、指導者の育成、講習会の開催 (3,049千円)
	女性から始まる介護予防支援事業		はつらつ女性健康づくりプログラム講習会:年10回 女性から始まる健康づくりシンポジウム 年1回 (3,990千円)
千葉	女性のための健康相談窓口	全、県保健所(14)	女性医師による女性のための健康相談 月1~4回、予約制
神奈川	生涯を通じた女性の健康支援事業(思春期保健相談事業を含む)	県保健福祉事務所11ヶ所	女性を対象にした健康相談(保健師による一般相談及び産婦人科医による専門相談) 女性を対象にした健康教育
新潟	生涯を通じた女性の健康支援事業	13保健所	女性の心と体に関する相談及び健康教室の実施
富山	生涯を通じた女性の健康支援事業	保健所①~④	女性が健康状態、ライフサイクルに応じ、適切に健康管理ができるように健康教育を実施すると共に相談体制を整備する。①女性の健康についての健康教育、講演会の開催 ②思春期ライブラリー、思春期テレフォン(健康教育教材の整備と思春期電話相談) ③思春期保健関係者会議 ④女性の健康支援センター事業 ⑤相談担当研修 ⑥不妊専門相談事業
長野	女性の健康ライフ事業	県下10ヶ所の保健所	女性生き生き健康相談:
岐阜	女性のためのヘルスアップセミナー	県内5圏域毎に開催	「女性に重点を置いた施策の展開」の一環として動脈硬化、がん等多くの病気の原因といわれている『活性酵素』を素材に女性を対象に研修や検査を行う
奈良	生涯を通じた女性の健康支援事業	県内各保健所(5保健所)	女性のライフステージに応じた健康教育、健康相談
鳥取	女性の健康づくり支援事業	各保健所	①健康教育事業:思春期から更年期の女性に対して健康教育実施 ②女性の健康支援センター運営事業:女性の健康に関する電話相談・面接相談の実施、14年度は予約制で医師の面接相談を行っているが男性医師である
岡山	女性の健康教育事業	9保健所	思春期から更年期にいたる女性を対象とした健康教育・講演会の開催。
徳島	生涯を通じた女性の健康支援事業	県内6保健所	健康教室、講演・パンフレットの配布、相談事業
愛媛	生涯を通じた女性の健康支援事業	県保健所8ヶ所 県健康増進センター	①女性の健康支援事業連絡協議会の開催:事業の実施方法・内容の検討、女性の健康に関する情報収集、分析方法の検討等 ②健康教育事業:県内保健所において医師、保健師等が、ライフサイクルに応じた性と生の健康づくりに関する教育を行う。 ③健康相談事業 ア 一般健康相談(県内保健所において面接・電話相談) イ 専門健康相談(県健康増進センターにおいて面接・電話相談 ウ 不妊専門相談センター事業(イに同じ)
高知	女性の健康づくり応援事業	各総合保健所	

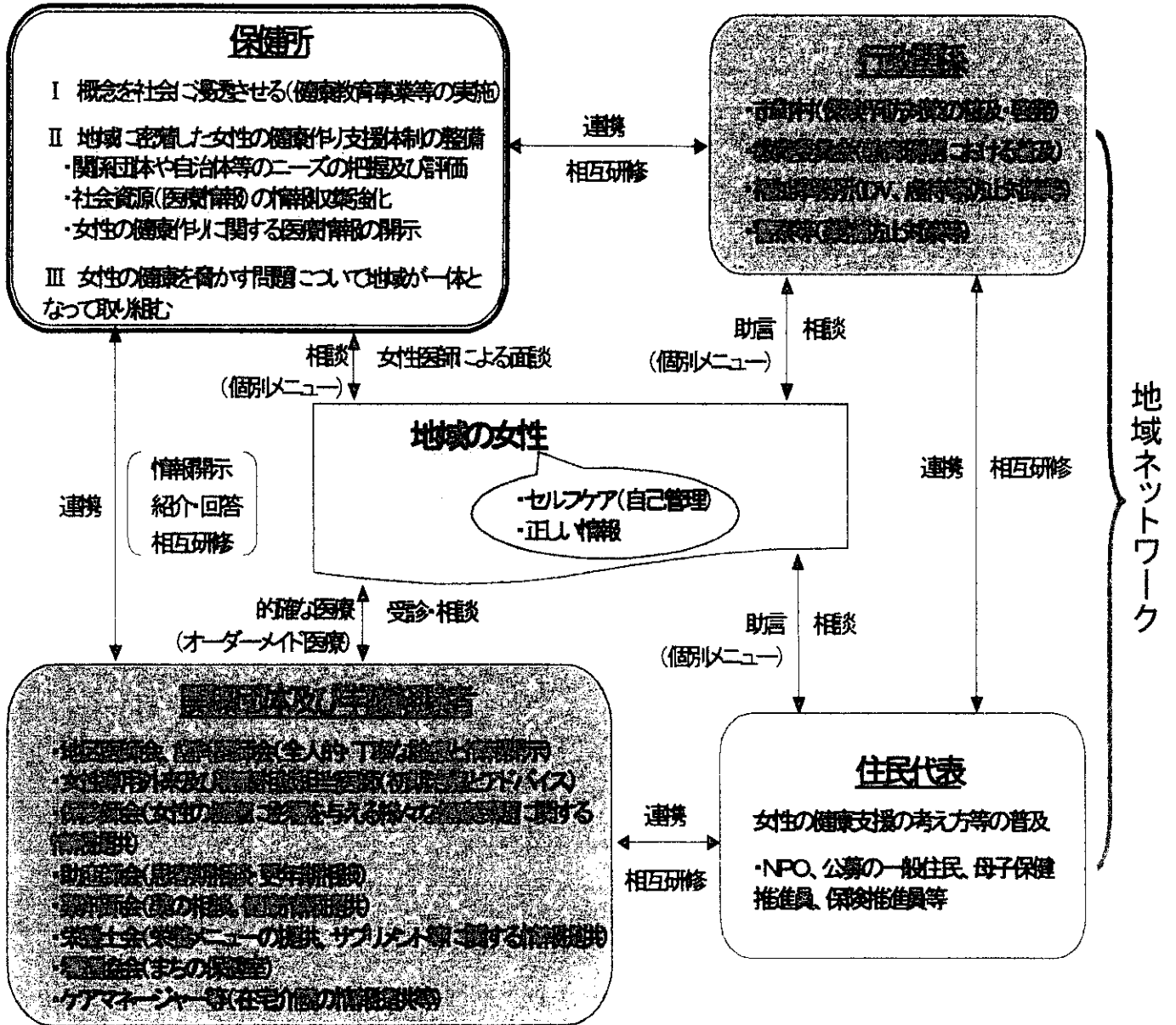
福岡	生涯を通じた女性の健康支援事業	県13保健福祉事務所	①女性の健康相談:3事務所毎月1回(不妊、更年期等女性の心身の健康に関する相談) ②健康教室:6事務所各年3回 思春期から更年期女性を対象 ③13事務所で助産師対応の女性の健康に関する電話相談 ④健康相談担当者研修会
佐賀	思春期からの健康支援事業	県5保健所	①1保健所に『不妊専門相談センター』、女性の医師による専門相談(月2回)・保健師による相談(週1回)。相談専門電話を設置し、随時相談に対応している。他の4保健所において、保健師による一般的な相談(週1回)を実施している。 ②各保健所において保健師による思春期から更年期までの女性に関する相談(週1回)
長崎	健やか親子サポート事業	県8保健所	思春期から更年期まで書くライフサイクルに応じた健康管理ができるよう健康相談、健康教育を実施する。1.健康教育:思春期(学校と連携)・更年期(市町村と連携)、2.健やか親子相談:思春期の性、妊娠、避妊、性感染症、不妊、更年期・・・主に保健師対応 3.担当者の研修:市町村、保健所の保健師、学校の担当者等
宮崎	女性の健康づくり支援事業	8保健所	●ピアカウンセリング講座:同世代のピアカウンセラーによるピアカウンセリングを行い、正しい思春期保健の知識を普及する ●中高年女性の健康教室:保健所等で健康教室を開催し、中高年期における女性が『更年期』について正しい知識をもち仲間作りを行う
熊本	女性のケア事業	婦人相談所	性的被害やDVIによるPTSDなどの女性特有の心の問題や、妊娠しても社会的経済的理由等で出産に関し強い葛藤のある女性に、専門的体制で相談に応じ、メンタルケアを行う。(予算9,950千円)
	●生涯を通じた女性の健康セミナー ●女性総合相談	男女共同参画センター	●自己の健康管理や女性特有の健康問題に対する理解を深めるため、若年層及び中高年層を対象としたセミナー(578千円) ●心身の不調や健康づくりなど、心身の問題について専門の医師及びその他の専門家が個別の相談に応じる(180千円)
	女性健康づくり意識調査		女性3,000人を対象として、妊娠・出産をはじめとした性差に配慮した健康づくりを進めるため、調査を実施する(2,897千円)
鹿児島	男女共同参画共同事業	県民交流センター 平成15年4月開館予定	臨床心理士、診療内科医、産婦人科医(女性医師を予定)による女性の心と体の健康相談 月1回3時間予定
札幌市	女性の健康相談	各区保健センター	各区保健センターにおいて思春期から更年期に至る女性に特有の健康上の問題に減し、助産師等が専門的な相談を行う
千葉市		保健所	女性の健康を支援するため保健所に相談窓口を設置し女性医師や保健師による相談を実施する。
川崎市	女性のためのヘルスアップセミナー	全区7保健所	毎月1回、全保健所で「女性医師による女性の健康相談」を平成15年4月から開設する。保健所女性医師が主に従事する他、妊娠や不妊等の専門相談にも対応できるよう、助産師や産婦人科医師も合わせて配置する。(産婦人科医師:女性医師がいない所は男性医師)
北九州市		男女共同参画センター	リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する講座等の実施『マタニティエアロビクス』『性感染症』など(事業担当:総務市民局男女共同参画課)
千代田区	健康セミナー	保健所	年3回実施、この中で女性向けのものを実施する
中央区	女性のための健康づくり教室	保健所 保健センター	各所年1回(3日制)栄養・運動・休養に関して専門講師による講習会及び運動指導を行う。又、低カロリーの食事等の試食を実施
	保健教室	保健所	年1回女性向の講座を開催している。テーマとして骨粗しょう症、外反母趾、尿失禁、更年期等
練馬区	健康教室	保健相談所 6ヶ所	熟年女性のイキイキヘルシーライフ 「今日から出来る!女性のための尿失禁予防」

表14 不妊に関する相談事業実施の自治体

自治体名	事業名	実施場所	事項
北海道	生涯を通じた女性の健康支援事業	旭川医科大学	不妊専門相談センターの設置
新潟	不妊相談センター事業	新潟大学附属病院、県立中央病院	不妊に関する相談(面接、電話、メール)
長野	女性の健康ライフ事業	不妊専門相談センター	不妊に悩む女性への専門相談、情報提供
愛知	女性健康支援事業		保健所保健師等対象にセミナーへの派遣及び研修会(不妊相談)の開催 その他、不妊専門相談事業(5,868千円)開始予定 (平成15年7月1日～)
京都	不妊専門相談センター事業	府立医科大学付属病院	不妊に関する専門的な相談指導や不妊治療について適切な情報提供を行う ①電話相談 月～金 午前10時～午後4時 相談員(助産師等) ②面接相談 予約 相談員(産婦人科等の専門医)
大阪	不妊対策事業	大阪府立女性総合センター	不妊に関する専門的な相談窓口の開設及び情報提供体制の整備。 ・不妊にまつわる悩みの相談(電話相談、面接相談) ・ホームページによる医療機関情報や『不妊Q&A』等の情報提供 ・不妊セミナーの開催
和歌山	母子保健推進事業		不妊治療、不妊相談②に関する実態調査
鳥取	不妊専門相談センター運営事業	県立病院	県立中央病院に委託、助産師による電話相談、医師による面接相談(予約制)、メールによる相談
島根	不妊専門相談センター事業	島根県立中央病院	不妊に悩む夫婦等を対象に専門医師、助産師による電話相談及び面接相談
山口	命を育む健康支援事業	県立病院、県健康福祉センター9ヶ所	不妊専門相談センターと健康支援センターを県立病院に委託。不妊専門相談を県健康福祉センター8ヶ所で実施(産婦人科医師による)。
香川	健やか妊娠サポート事業	県保健所6ヶ所 不妊相談センター	保健師、医師による女性の健康に関する相談 (保健所:毎月1～3回又は随時) 保健師(不妊カウンセラー)、産婦人科医師(男女各1名)・・・男性医師が来所相談、女性医師が主にメール相談担当)による不妊相談(不妊相談センターにおいて毎週3回) 不妊相談研修会:不妊相談②携わる保健師等の資質向上のための研修会
佐賀	①不妊の悩み相談事業	県保健所5ヶ所	①1保健所に『不妊専門相談センター』を設置し、女性の医師による専門相談(月2回)及び保健師による相談(週1回)実施している。又、相談専用電話を設置し、随時相談②対応している。他の4保健所において、保健師による一般的な相談(週1回)を実施している。
川崎市	女性医師による女性の健康相談事業	全区7保健所	毎月1回、全保健所で「女性医師による女性の健康相談」を平成15年4月から開設する。保健所女性医師が主に従事する他、妊娠や不妊等の専門相談にも対応できるよう、助産視野産婦人科医師も合わせて配置する。(産婦人科医師については、女性医師がいない所は男性医師)

図1

女性の健康を支える地域ネットワーク



平成14年度厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）

千葉県立東金病院における女性専用外来の

あゆみと今後の課題について

研究協力者 竹尾 愛理 千葉大学大学院医学研究院細胞治療学
平井 愛山 千葉県立東金病院院長

研究要旨 当院では、gender specific medicine の考え方にに基づき、『健康ちば21』による千葉県の女性の健康と医療におけるエビデンスを中心に、女性の健康についての問題点に対応しつつ、女性特有の疾患の診断、治療を行う女性専用外来を2001年9月開設した。1. 女性特有の疾患に配慮した医療の実践 2. 女性医師が担当することで、医療受診に対する抵抗を少なくする 3. 個の医療の実践 4. 他の専門外来との連携 5. 千葉県における女性専用外来の先駆自治体病院として県内各地の病院に外来を広げ、定着させることを目指して運営してきた。結果的に多くの女性の賛同と満足を得て、本外来は順調に経過しているが、いくつかの課題も生じている。

A. 研究目的

このわずか1～2年の間に、女性の総合的な医療を目的とした、女性専用外来あるいは女性総合診療科と名付けられる診療科が、日本全国に急速に広がってきた。性差に基づく医療(gender-specific medicine)の実践と個の医療を目指したこれまでにない新しい医療として、女性医療は大きな話題を呼んでいる。都道府県立病院としては全国で初めて女性専用外来を設置した千葉県立東金病院での開設に至るこれまでの経緯及び診療の実際を振り返り、今後の課題について考える。

B. 研究方法

2001年9月の開設までの経緯に関する記録および開設以来の患者カルテ調査による。

C. 研究結果

1. これまで診療の場がなかった、女性に特有な症状・疾病のための診療の場を始めて提供した。
2. 女性における個の医療の充実を図ることによって、これまで臓器別対応であった医療機関で解決出来なかった疾患について解決が可能となった。一人あたり十分な診察時間を確保することによって身体面と精神面を総合的に診療し、必要に応じ疾患や治療に関する十分な説明を行うことによってこれまで複数の医療機関を受診しても納得が得られなかった患者の満足を得た。
3. 当院においては、女性専用外来のみならず他の専門外来においても、女性特異的な疾患に関する知識が啓蒙され、或いは医療の実践が行われるようになった。

4. 女性専用外来の受診をきっかけに健康診断や乳腺疾患、婦人科疾患のスクリーニングを行い、疾患の早期発見、早期治療を行う場を確立した。

5. 当院における女性専用外来が好評を博したことから、県内外の複数の医療機関において、女性専用外来が開設されることとなった。

6. 女性専用外来はまだ歴史が浅く、医療システムのモデルとして定着するには、いくつかの課題がある。まず、担当の女性医師自身が日々研鑽を積み、内科、産婦人科、精神科など多岐に渡る疾患を総合的に診療するため、常に新たな知識を得る努力を続ける必要がある。今後の性差に基づく医療の発展のためにも、基礎研究の充実が期待される。また、女性専用外来では、受診者は多岐に渡る主訴をもってその診療を希望して来院し、疾患も幅広い範囲に及ぶことや、患者さんの総合的な診療が必要であることから、院内外の専門医との連携が重要である。

D. 考察

(1) 開設の経緯

平成13年9月、千葉県立東金病院（以下当院と略）は堂本暁子知事の強い要請を受け、女性特有の疾患に対応するため、総合的な女性の医療サービスの提供を目的として、女性専用外来を開設した。ここでは、今後10年間の千葉県の保健医療政策の基本方針である「健康ちば21」¹（平井愛山策定委員長）が女性専用外来の開設に当たり大きな役割を果たしたことが特徴である²。「健康ちば21」において「根拠に基づいた保健医療行政（医政）」の構築と実践を目指して、膨大なデータから多大な労力をも

って千葉県の保健医療に関する現状分析を行い、今後行政が取り組むべき課題を明示し、これが千葉県において女性専用外来が発展する礎となった。

(2) 女性専用外来開設の目的

当院における女性専用外来開設の目的は以下の通りである。

1. 女性特有の疾患に配慮した医療の実践

女性と男性にはそれぞれ特有の疾患や病態があるという「性差に基づく医療」（gender specific medicine）の概念が、1990年代よりアメリカを中心に急速に広がってきた。日本では天野恵子千葉県衛生研究所所長が初めて提唱した。当院では、gender specific medicine の考え方にに基づき、『健康ちば21』による千葉県の女性の健康と医療におけるエビデンスを中心に、女性の健康についての問題点に対応しつつ、女性特有の疾患の診断、治療を行う。

2. 女性医師が担当することで、医療受診に対する抵抗を少なくする。

診療は女性医師が担当し、話し易い雰囲気作りに留意しつつデリケートで女性特有な症状、希望に対応し、診療をより抵抗なくスムーズに進めることによって、疾患の早期発見、早期治療をはかる。

3. 個の医療の実践

初診時1人当たり30分の診察時間を設定し、傾聴を行うと同時に疾患の背景に対する配慮を行い、身体と精神を分離せず総合的な医療を行う。人間の身体は個々の分離した臓器ではなく全てが集まって一人の人間を構成するという考え方にに基づき、個人に合った医療を実践する。

4. 他の専門外来との連携

当院が開設している専門外来である乳腺

外来、高脂血症外来、骨粗鬆症外来、婦人科外来などとの連携をはかるとともに、地域の他の診療科及び女性医師との連携を行い、各専門分野の視点から診療する。

5. 自治体病院としての役割

千葉県における女性専用外来の先駆として、開設以後、県内各地の病院に外来を広げ、定着させる。

(3) 女性専用外来開設に当たっての準備

女性専用外来開設にあたり、当院の平井院長により様々な準備が行われた。カーテンで仕切られていた内科の診察室の入り口にスライド式ドアを設置し、窓をスリガラスに換えることでプライバシーへの配慮を行った。また、上述のように『健康ちば21』で明らかにされた千葉県の女性の医療・健康問題の課題に鑑み、女性に特有な疾患に対応するため、X線骨密度測定装置及びマンモグラフィーを導入した。また、女医による女性専門外来を核として乳腺外来、骨粗鬆症外来、高脂血症外来などの専門外来がサポートする病院を挙げて女性の全身を診る診療体制を整えた。

院長及び担当医は、一足早く女性のための女医外来を開設している鹿児島大学医学部第1内科を視察し、温かい指導を受けた。診療の担当は千葉大学大学院医学研究院細胞治療学（第二内科）齋藤康教授の全面的な協力により当該科の女性医師が非常勤として当たったが、受診希望者が殺到したことから、担当医が増設され、平成14年4月より整形外科でも女性専用外来が開設された。担当医は天野恵子千葉県衛生研究所長により丁寧な指導を受けた。また、ウイメンズヘルスフォーラム21(WHF21)コーディネーターの薬剤師宮原富士子氏からは

地域の調剤薬局薬剤師への啓蒙普及活動が行われた。

県民へのPR方法などについては、県民だよりや各市町村の広報を活用した。

(4) 『健康ちば21』について

東金病院では女性特有の疾患に対応するに当たり、『健康ちば21』策定の基礎となったエビデンスの中から女性外来の基礎となる重要な事実を見出した。

(a) 千葉県の働き盛り（65歳未満）の女性の死亡原因の半分はガンであり、なかでも乳ガンがもっとも多い(図1)。

(b) 千葉県の女性は乳ガンの死亡率（標準化死亡比：SMR）は全国4位と極めて悪い状況にある(表1)。

(c) 千葉県の若年女性のカルシウム摂取量は著しく低下しており、骨粗鬆症の予防の観点からきわめて大きな問題である。

(d) 動脈硬化性疾患の死亡原因に占める割合は女性が男性よりもかなり高い。

(e) 千葉県の女性は閉経後高コレステロール血症が急増する。

これらのエビデンスに基づき、平井院長は当院の女性専用外来の開始にあたって乳がんと骨粗鬆症が最も重要と思われたことから、乳ガンの早期診断のために高精度のマンモグラフィーと、また骨粗鬆症の診断に精密度の高い最新のX線骨密度測定装置を導入した。

(5) 女性専用外来の診療の流れ

心と身体のゆとりのある診療を行うため、初診時には一人30分の診察時間を設定した。受診希望者はまず、電話で担当の看護師に簡単な症状を伝え、予約する。受診日は再度看護師からの連絡により決定する。

受診日には、問診表を基にしながら詳細

な問診を行い、必要であれば、背景の家庭的、社会的な状況も含めて聞いていく。基本的には口を挟まず、まず、訴えを十分に傾聴する。これだけで体調が改善することもある。その後、診察し、身体所見を取り、必要であれば、血液検査などを行い、投薬などを行うことになる点は一般外来と大きな差異はない。必要があれば院内外の他科医に紹介する。

(6) 女性専用外来の受診者について

平成13年9月から平成14年5月までに当院を受診した199名についての概要についてまとめた。

まず、来院者の年齢は、40歳、50歳代の閉経前後の受診者が多く、全体の3分の2を占めた(図2)。年齢層は10歳代から80歳まで広く分布していた。受診者のこれまでの医療機関通院歴については、全く初診であるものは全体の17%に過ぎず、複数の医療機関を受診していたものも多く、これまでの説明や治療に納得できなかったものが受診したものと思われた。受診科については、内科、産婦人科、精神科、心療内科が多かった。

受診者の疾患分類について述べる。当院の受診者は、更年期障害が44.7%と最も多く、精神神経疾患が13.6%、産婦人科疾患や、それらのセカンドオピニオンを求める者が12.6%、狭心症、プロラクチノーマなどの器質的疾患が11.6%、冷え、肩こりなどの不定愁訴が6%であった。その他、乳腺疾患、骨粗鬆症、など多岐に渡った。

治療については、東金病院では、カウンセリング(傾聴)、漢方薬、マイナートランキライザー、ホルモン補充療法など、個々の病態に合わせて用いている。

特に、更年期障害や、西洋医学的に器質的な疾患分類が不可能な「不定愁訴」については、漢方薬などの東洋医学的診療法が有用である。当然のことであるが、これらの治療法も、西洋医学的治療法と同様、適応と副作用について十分な検討がなされる必要がある。

受診者の病態が多岐に渡ることから内科以外の医師との緊密な連携が必要である。今後、女性に特異的な疾患や治療に理解のある医療機関が増加することで、連携が更にスムーズになるものと期待される。

(7) 女性専用外来の成果について

当院東金病院における女性専用外来が開設されて以来、本年9月で丸1年となった。東金病院では、開設前より多数の予約が殺到し、平成14年11月初めの時点で延べ700名以上の予約数となっている。

種々のメディアで紹介された当外来の成果は、これまでにない、患者さんの要望にそった新たな医療サービスを提供することが可能になったことであると考えられる。詳細は以下の通りである。

1. これまで診療の場がなかった、女性に特有な症状・疾病のための診療の場を始めて提供した。これまで、「そのうちなおる」、「精神的なもので病気ではない」というように軽視されがちであり、主訴なども多岐に渡るため、医療者からも敬遠される傾向があった更年期障害の諸症状は、多忙な外来の中で、病気ではないと簡単に結論付けられたり、傾聴のない投薬のみの治療となることが多かった。一方、更年期障害は個人差があるものの、人によっては重度の自律神経障害や精神的な症状のために生活の質を著しく低下させていることもある。こ

のような状況の中で、まず初診時30分の診察時間を設定し、傾聴に十分な時間をかけるようにしたこと、そして身体症状と精神症状について総合的に診療するというあり方が更年期障害の治療を有効にしたものと思われる。千葉県における「健康ちば21」でのエビデンスにより、マンモグラフィの導入を行ったことから、安心してホルモン補充療法を施行することが可能となった。

2. 女性における個の医療の充実を図ることによって、これまで臓器別対応であった医療機関で解決出来なかった疾患について問題の解決が可能となった。一人あたり十分な診察時間を確保することによって身体面と精神面を総合的に診療し、必要に応じ疾患や治療に関する十分な説明を行うことによってこれまで複数の医療機関を受診しても納得が得られなかった患者さんの満足を得ている。この中には冷えや頭痛、肩こりなどの「不定愁訴」と呼ばれる症状がみられ、西洋学的には疾患概念がないにも関わらず生活する上で不調をもたらす多種に渡る体調の不調について対応出来る場を提供した。

3. 当院において女性専用外来のみならず他の専門外来においても、女性特異的な疾患に関する知識が啓蒙され、或いは医療の実践が行われるようになった。

4. 女性専用外来の受診をきっかけに健康診断や乳腺疾患、婦人科疾患のスクリーニングを行い、疾患の早期発見、早期治療を行う場を確立した。これはそれまで健康診断や医療機関における健康診断などに、担当医師が男性であって嫌な思いをしたり、恥ずかしくて受診を躊躇した患者さんにとつ

ては乳がん、子宮癌、卵巣癌などの悪性疾患の早期発見の機会の増加に繋がる。また、女性における寝たきりの原因として深刻な問題である閉経後の骨粗鬆症についても早期診断、早期治療の場を提供している。また、非特異的な症状に悩み、どの科を受診したら良いかわからない受診者の道標を示すプライマリー・ケアの役割を果たすことも重要である。

5. 当院において女性専用外来が好評を博したことから、県内の複数の医療機関において、女性専用外来が開設されることとなり、当院ではこれまで、多くの県内外からの見学を受け入れている。一方、保健行政では、本年4月より県内15箇所の保健所において、女医による女性のための健康相談が開始された。さらに本年9月より女性の健康に関する様々な疫学調査が千葉県下で一斉に開始されたところである。

(8) 今後の課題について

女性専用外来はまだ全国的にも歴史が浅いことから、今後の発展のための課題が幾つかある。

まず、担当の女性医師自身が日々研鑽を積み、内科、産婦人科、精神科など多岐に渡る疾患を総合的に診療するため、常に新たな知識を得る努力を続ける必要がある。今後の性差に基づく医療の発展のためにも、基礎研究の充実が期待される。

次に、女性専用外来では、受診者は多岐に渡る主訴をもってその診療を希望して来院し、疾患も幅広い範囲に及ぶことや、患者さんの総合的な診療が必要であることから、院内外の専門医との連携が重要である。当院では外来の開始にあたり、各専門医に協力の依頼を行っているが、今後更に緊密

な連携を充実させる必要がある。当院では、骨密度測定装置など的高額医療機器を地域の医療機関と共有・活用することにより、当該医療圏における性差に基づく医療のレベルアップを目指す地域医療支援の視点も大変重要である。当院では2001年度に電子カルテを核とした「1地域患者1カルテ」をめざす地域医療情報ネットワーク「わかしお医療ネットワーク」を構築し、15の診療所と16の調剤薬局を電子カルテネットワークでつないだ所である³⁾。今年度は個々の診療所や開業医との連携のもとで最新の骨粗鬆症の診療をすすめていくことを予定している⁴⁾。

受診者は、疾患の背後に、介護などの様々な社会的な問題を抱えている場合も多く、コメディカルスタッフとの協力は不可欠である⁵⁾⁶⁾。女性専用外来の診療に携わる医師のみならず看護師、薬剤師、保健師、栄養士などとの連携体制を構築していくことのみならず、傾聴などを通じて受診者を精神的に受け止め、支える必要があることなどから、その負担は決して軽いものとはいえない。担当医は多科に渡る疾患について更なる研鑽や人間的な理解が必要であり、また、外来を担当する過程で、人間的な成長も得られるであろう。今後は、複数が今後の重要な課題である。

最後に、女性専用外来において担当医は、外来の性格上、多岐に渡る疾患に対応するの医療機関の女性専用外来担当医間での意見交換を通じて、切磋琢磨が必要であろうし、そのような場から新しい知見が得られる可能性が期待される。学問的な体系付けが必要である。

E. 結語

女性専用外来は、開設後1年程しか経過しておらず、まだまだ解決すべき課題は多い。しかし、個の医療の実践を目的とした当外来はこれまで多数の医療機関において解決出来なかった多くの受診者に好評であり、新しい医療の形として今後も大きな役割を果たすと考えられ、更なる発展が期待される。

最後に、当院の女性専用外来を立ち上げるのに際して、ご指導、ご支援いただいた鹿児島大学第一内科鄭教授はじめ多くの方々に深甚な謝意を表す。

参考文献

1. http://www.pref.chiba.jp/syozoku/c_kenzou/1kikaku/21/21top.html
2. 竹尾愛理、平賀幸枝、大西眞澄、平井愛山 千葉県立東金病院における女性専用外来のあゆみ フロンティア 全国自治体病院協議会雑誌 41(7)803-811、2002
3. 平井愛山：電子カルテを中核とした新たな病・診・薬連携ネットワークの構築と展開-わかしお医療ネットワークの現状と展開-、INNERVISION 17(7) 印刷中
4. 平井愛山：病院情報システムにおける診療ガイドラインの活用 EBM ジャーナル 3(4)：60-66、2002
5. 山下 朱實、平賀 幸枝：女性専用外来のヴィジョンと看護の役割 ナースマネジャー 4(1)：27-31、2002.
6. 竹尾 愛理、平賀 幸枝、大西 眞澄、平井 愛山 千葉県立東金病院における女性専用外来の成果と課題について 看護

図1 千葉県民の各ガンの65歳未満における死亡率:早世係数(%)

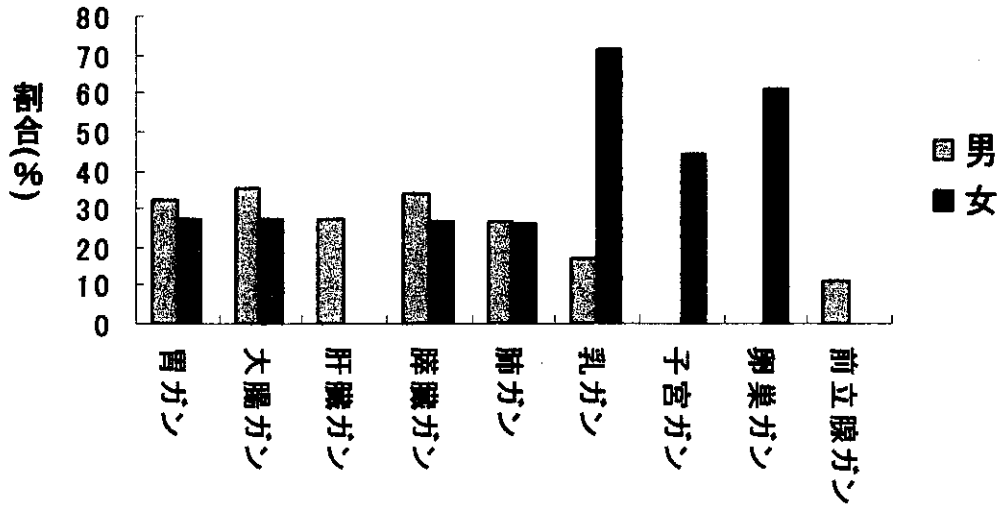


図2 受診者の年齢分布

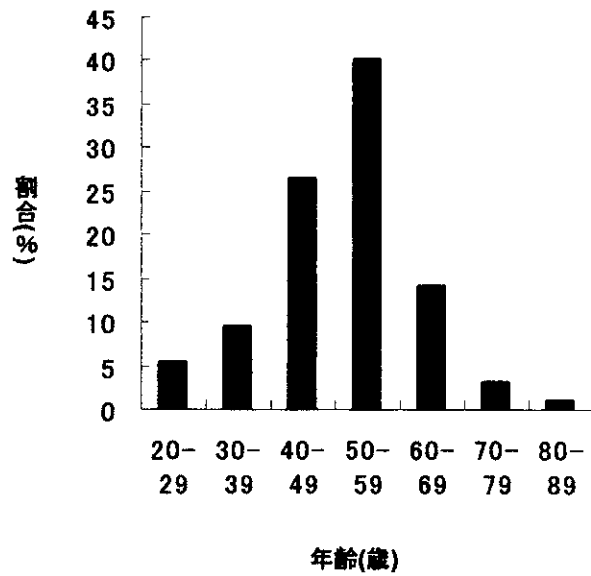


図3 女性専用外来受診者の疾患分類

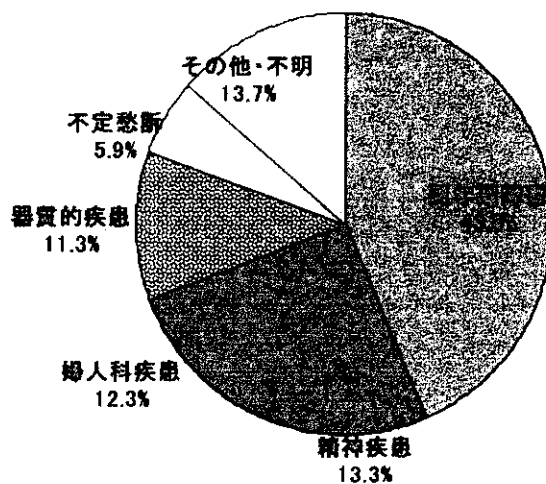


表1 千葉県におけるガン死亡の全国の位置づけ

	性別	年齢調整死亡率	順位	SMR	順位
胃がん	男	50	4	107.1	13
	女	18.4	19	103.5	19
肺がん	男	39.7	44	90.2	41
	女	12.1	20	95.2	23
大腸がん	男	24.7	19	102.9	14
	女	13.6	24	102.1	17
乳がん	男女	10.5	10	<u>107.9</u>	<u>4</u>
子宮がん	女	5.2	23	101	23

時代のニーズから生まれたウイメンズクリニックの歩み

研究協力者

宮原富士子

（千葉県健康福祉部健康増進課）

研究要旨 2001年、21世紀の幕開けとともに「女性医師による女性専用外来」設立の動きが全国で急速に進みつつある。1990年代初頭には、更年期外来の設立、更年期クリニックの開設に端を発した女性医療のブームがあった。医療を受ける女性側が、自身の健康に関する情報を正しく入手することができれば、目的別に診療を選ぶことも、医師の性別で診療を選ぶことも可能となりその選択肢は広がっている。

A. 研究目的

2001年、21世紀の幕開けとともに「女性医師による女性専用外来」設立の動きが全国で急速に進みつつある。1990年代初頭には、更年期外来の設立、更年期クリニックの開設に端を発した女性医療のブームがあった。このほぼ10年を隔てて起こっている女性医療ブームについて検討した。

B. 研究方法

文献検索による。

C. 研究結果

1990年代初頭に見られた第一次女性医療ブームは、高齢化社会の到来の中で閉経以降の女性の健康がより重視されるようになり、更年期外来の設置、ホルモン補充療法の実施というかたちで進み、更年期以降の女性の健康に関する研究成果も出つつある。2001年21世紀の幕開けとともに始まった第二次女性医療ブームは女性医師による診療と言う医師の性別で診療を選ぶことを可能とした。第一次・第二次女性医療ブームに共通することは、「問診に時間をかける」「トータルケアの観点から診療を行う」と言うことである。

D. 考察

(1) 生涯にわたる女性の健康支援のための医療サポートシステム

女性はその生涯の中で、必ず初経と閉経という大きな身体変化や、多くの場合、妊娠・出産という大きなライフイベントなどを経験する。初経前後からの心身発育に関する様々な教育を含む支援に始まり、閉経前後におきる女性独特の更年期症状のケアや、その後の長期にわたるエストロゲン欠乏状態により発症する様々な疾患の予防対策などを含め、生涯にわたる女性の健康支援体制を構築することが必要である。そのためには、思春期・性成熟期、更年期、老年期の各世代における正しい情報の提供としての適切な保健教育、疾病の予防教育、早期発見とケア（治療を含む）をふまえた保健医療システムの検討とその実施展開が不可欠である。日本においても、女性医療システムの展開が活発になさるようになってきている。すなわちメディアにも大きく取り上げられた更年期医療に端を発する第一次女性医療ブームと2001年以降取り上げられている女性（専用）外来という第二次女性医療ブームである。

(2)1990年代前後の「更年期クリニック」および「ホルモン補充療法(HRT)」をキーワードとする第一次女性医療ブーム

1990年代初頭、更年期外来の設立、更年期クリニックの開設に端を発した第一期女性医療メディアブームが沸き起こった。マスコミ(メディア)も「更年期」「ホルモン補充療法(HRT)」を大きく取り上げ、1993年以降、更年期やHRTを扱う書籍、雑誌の記事、女性誌などが大量に発売された。女性にとってはまさに画期的な出来事であった。女性がこれらの情報を活用して更年期外来(女性のための医療)を選択し始めた。これはまさにWomen's Decisionの時代の幕開けである。その背景は下記に示すとおり、医学のみならず社会的に少子高齢化にいち早く対応した動向でもあった。1990年は第一次ベビーブームの女性が42歳を迎えた年である。

①少子化が進み出生数が減少していくなか、産婦人科の治療領域として更年期以降の女性へのトータルヘルスケアが注目されるようになった。

②女性の身体におけるエストロゲン作用に関する研究が進み、疾病の予防対策としてのホルモン補充療法への脚光が集まった。

(この頃、米国においても心疾患への予防の観点からホルモン補充療法が強く推奨されるようになっていた)

③高齢化が加速することへの懸念から、長寿を誇る日本においては、健康寿命延長のため、閉経以降の女性の疾病予防がより一層重要視されるようになった。

④医療の進歩の中で、QOLというとらえ方が導入されるようになり、更年期前後の女性における更年期症状への対応について

は、単に疾病の治療だけでなくQOLについても考慮されるようになった。

⑤女性の社会進出も日常となり、女性自身の健康認識や取り組みの変化も顕在化し、女性の健康を考える団体も登場し、女性も自分たちが入手した情報をもとに更年期障害を乗り切るための対策(いかに自分たちに適した医療を入手しうるのか)などを模索し始めた。

更年期外来という名称は、大学病院から声を上げ始め、第一次ブームの数年前から開設され始めた。1980年初頭に東京大学、北海道大学に専門外来として「更年期」が取り上げられ、1986年に大阪医科大学、1989年に九州大学と昭和大学、慶応義塾大学(中高年健康維持外来)、1992 東京医科歯科大学、高知医科大学、徳島大学、京都府立医科大学(クィーンズ外来)、この他にも新潟大学など全国的に「更年期外来」の開設が続いた。クィーンズ外来(京都府立医大)、アゼリア外来(聖マリアンナ医大)などネーミングにも様々な工夫がなされ、その名称は今でも更年期女性から親しみをもって継承されている。これらの施設がメディアを通じて「ホルモン補充療法」を治療としてとりあげている施設として紹介されるようになる。その後も次々と「更年期および更年期以降の中老年女性のためのヘルスケア外来」が登場し現在に至っている。これらの更年期外来は、マスコミでも大きく取り上げられ、女性たちの強力なサポーターとして人気が高まり予約が殺到し、何ヶ月もの予約待ちという状況も発生するほど注目されていた。その診察状態は今にいたるまで継続され、更年期以降の女性の健康に関する様々な研究成果も発表され大いなる